

公募説明会

若者とつながるための 「夜の居場所」創出および 経営運営支援事業

実践と研究の融合を通じた社会実装モデルの形成

休眠預金活用事業【2025年度通常枠・第2回】



育て上げネット



休眠預金活用事業

本日のアジェンダ (13:30~15:00)

1 団体紹介

育て上げネットについて

2 休眠預金活用事業について

制度の概要

3 本事業の背景

若者の孤立・孤独の深刻化

4 3年間で取り組んでいただきたいこと

事業概要・ロジックモデル・伴走支援

5 募集の概要

実行団体の条件・助成額

6 申請・審査の流れ

スケジュール

7 計画書類について

事業計画・資金計画の記載方法

8 質疑応答

認定NPO法人 育て上げネットの理念

Vision
めざす社会

すべての若者が自分に合った「働く」と
自分に合った「生き方」を実現できること

Mission
果たすべき使命


若者と社会をつなぐ

Action
具体的な取り組み

当事者を支援する>>>支え手・担い手を増やす>>>社会にインフラをつくる

若年就労支援
(当事者/保護者)

支援基盤強化
(研究開発/人材育成)

生態系創出
(資源調達/政策提言)

育て上げネットの事業

働く基礎作成期

成果が目に見える作業を経て、
依頼者のある仕事や
共同作業のリーダーを担います。

働く自信醸成期

IT技術を習得したり、
販売実習に取り組んだり、
インターンに向け準備します。

働く試行期＝インターン

当法人提携企業で
社員の一員として
働く体験を試します。

就活チャレンジ期

個別対応で、
スタッフと一緒に
取り組みます。



若者支援事業

若者に提供する就労基礎訓練プログラム



「働く」＋「続ける」

働く上での悩み相談や
キャリアアップの相談も。
イベントも多彩です。

育て上げネットの事業

動き出せない「わが子」の
自立・就労に悩む母親の会



お問い合わせは

info@sodateage.net

☎042-527-6051

まず最も身近な存在である保護者やご家族が支援機関とつながり、効果的な接し方・伝え方を学びながら本人と社会がつながる後押しをしていく会です。本人が動き出した後、継続させる応援方法も学びます。



家族関係の調整から スタート

「わが子」が一步踏み出すためには家族間の調整も必要です。ときには、夫婦関係についてのアドバイスもします。

専門性の高い コンサルティング

具体的なアドバイスを得られるよう、問題解決に向けた提案を含むコンサルティングを行っています。

同じ悩みを抱える方 との語らい

親戚などには話しにくいことも、「結」の勉強会や茶話会なら安心。相談員がサポートします。

ご家族やご本人の 相談にも

お母さまだけでなく、お父さまやご家族、またご本人からのご相談にも応じます。

育て上げネットの事業

教育支援事業

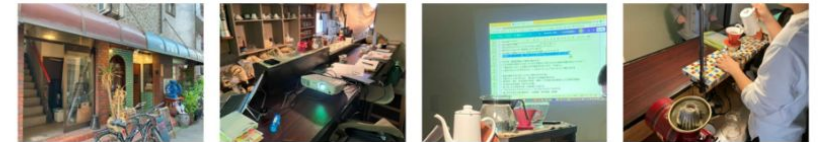
高校生に提供する金銭基礎教育プログラム



にしよぼら

投稿日時: 2024/05/31 校長

学校ボランティア「にしよぼら」には、保護者をはじめ、地域の方々、高校生も参加して下さっています。2ヶ月で延べ200名を超える皆様のご協力があり、教育活動の充実を図ることができています。本日は、「ブックパークプロジェクト」として、図書室の環境整備をしていただきました。雨が多くなる時期、雨に関する本のすてきなPOPを作ってくださいましたので紹介します。



所感

参加した若者から「対象図書が難しかった」、「自分の意見を人前でいうのは苦手なので何を話せばよいかわからなかった」という言葉があり、「読書会」と題したものの実際には「討論会」というほうが適切な内容だったため、若者によっては難易度が高かったと思われる。

とはいえ、一般社会人の参加者からは、「社会事象について人と話す機会がないため、実施してくれて本当によかった」等の好意的な言葉をもらった。講師たちからも2回目の実施を望んでもらえたため、次回以降の開催は一般社会人向けにおこなうのが適切に感じた。

学習支援事業

小中高校生に提供する学習支援



夜のユースセンター

はじめた きっかけ

家に帰ると親からアレコレ言われる
ひとりになると余計なことを考える



ギリギリまでいたいという
若者のために夜の時間にも
利用できるようにしよう

現場リーダー ● 阿部
渉

実施概要

毎週土曜日18:00~21:00実施

15:00くらいから参加もOK

予約してもしなくてもOK

晩ごはん用の弁当用意
(近隣個店の協力の下)

何をしてもいい・途中帰宅も可

法人支援員からの紹介制

1年間のべ**1,000**人が利用

無料

食事あり・入退場自由

- ① 夕食あります
- ② ゲームあります
- ③ 無料です

毎週土曜日
18:00~21:00

夜^{よる}のミュージアセンター

はじめて
わかったこと

家にいたくない
家にいられない
ひきこもり DV ネグレクト 非行
夜間に自宅でひとり

公共機関は
早く閉館する
お金をかけず、夜、外にいられる場所がない
仕方なく繁華街の路上に行く若者も

安心できる
夜の居場所があ
る



お腹をすかせている
家族分の弁当を持ち帰る若者も

支援・被支援の関係が
曖昧な場所を求めている
“支援されたい”わけではない

毎週継続して会うことで
本人の変化 (sosのサイン) に
すばやく気づける

本日のアジェンダ (13:30~15:00)

1 団体紹介

育て上げネットについて

2 休眠預金活用事業について

制度の概要

3 本事業の背景

若者の孤立・孤独の深刻化

4 3年間で取り組んでいただきたいこと

事業概要・ロジックモデル・伴走支援

5 募集の概要

実行団体の条件・助成額

6 申請・審査の流れ

スケジュール

7 計画書類について

事業計画・資金計画の記載方法

8 質疑応答

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構(JANPIA)

事業部 上野 みづき様

本日のアジェンダ (13:30~15:00)

1 団体紹介

育て上げネットについて

2 休眠預金活用事業について

制度の概要

3 本事業の背景

若者の孤立・孤独の深刻化

4 3年間で取り組んでいただきたいこと

事業概要・ロジックモデル・伴走支援

5 募集の概要

実行団体の条件・助成額

6 申請・審査の流れ

スケジュール

7 計画書類について

事業計画・資金計画の記載方法

8 質疑応答

本事業の背景

2022年春頃から「夜のユースセンター」の活動を開始しました

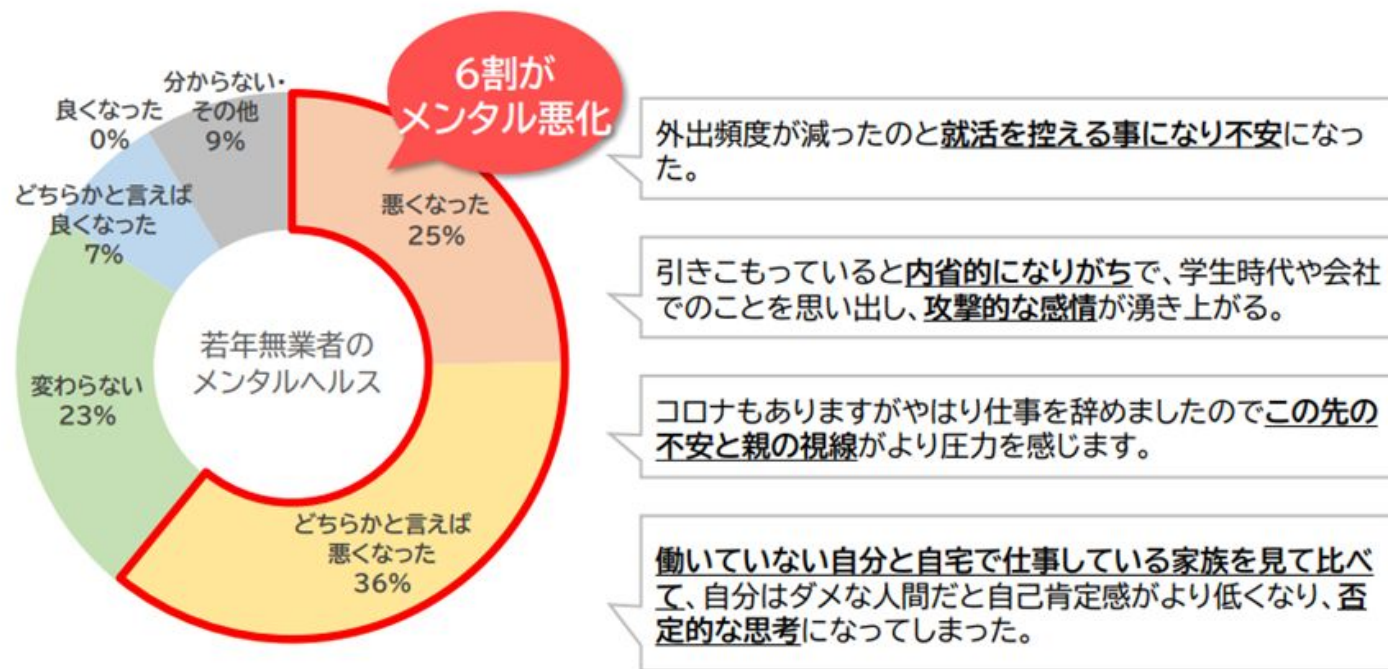


本事業の背景

コロナ禍の若者と「はたらく」

メンタルヘルス

若年無業者の6割がメンタルヘルスの悪化を自覚。
外出制限、就活への支障、家族関係の変化などから、
キャリアへの不安や気分の浮き沈みが現れている。

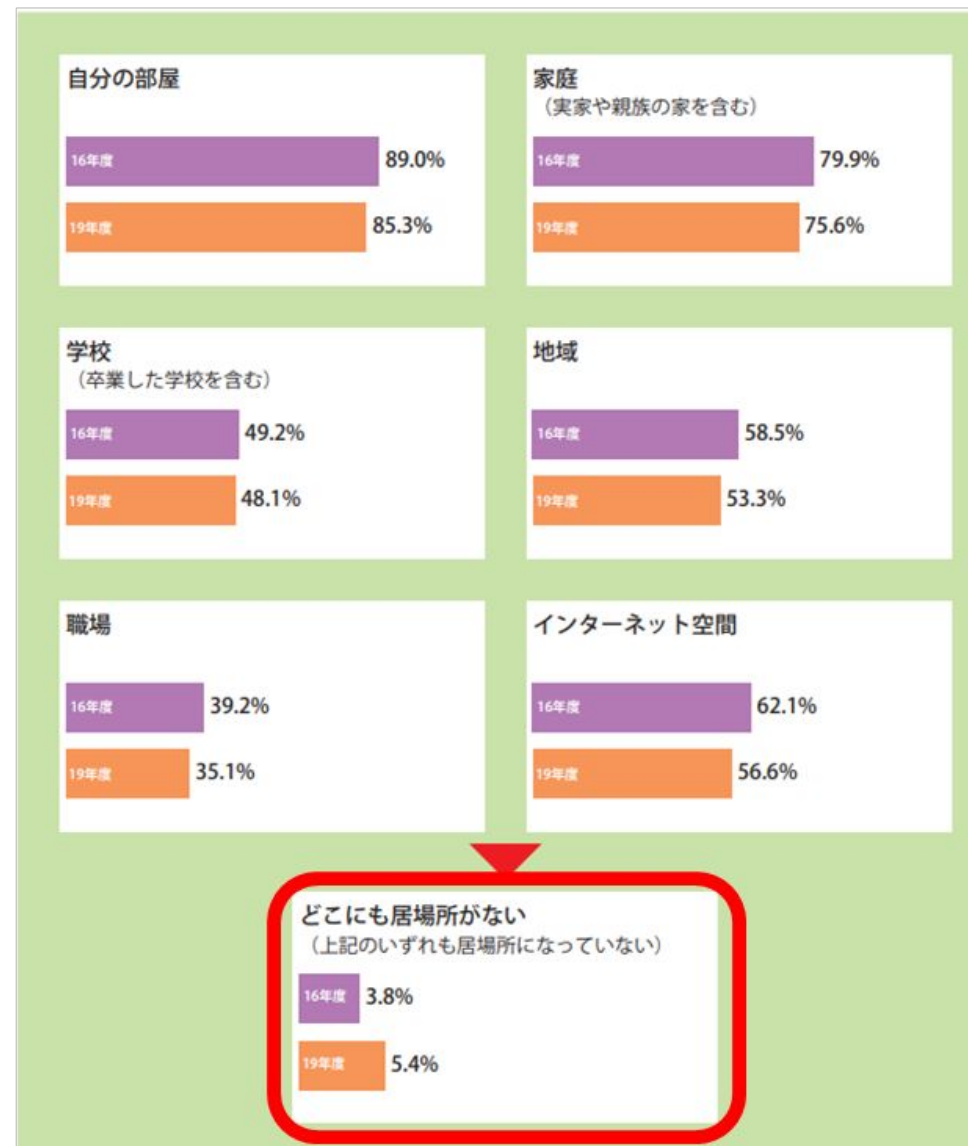


育て上げリサーチ: <https://www.sodateage.net/wp/wp-content/uploads/2020/09/covid19-sodateage2020.pdf>

本事業の背景

子ども・若者にとっての居場所

- 「自分の部屋」「家庭」「学校」「地域」「職場」「インターネット空間」の6つの場所全てについて、居場所だと捉えている子ども・若者の割合は減少
- 「どこにも居場所がない」と回答した人は5.4%。3年前と比べて増加



内閣府「令和4年度版子ども・若者白書」

本事業の背景

居場所と自己認識

- 居場所の数の多さと自己認識の前向きさは概ね相関



内閣府「令和4年度版子ども・若者白書」

2022年度 新型コロナ及び原油価格・物価高騰対応支援枠

若者の「望まない孤独」 支援モデル形成事業

～「時間・距離・敷居」の壁を超える～



本事業の背景

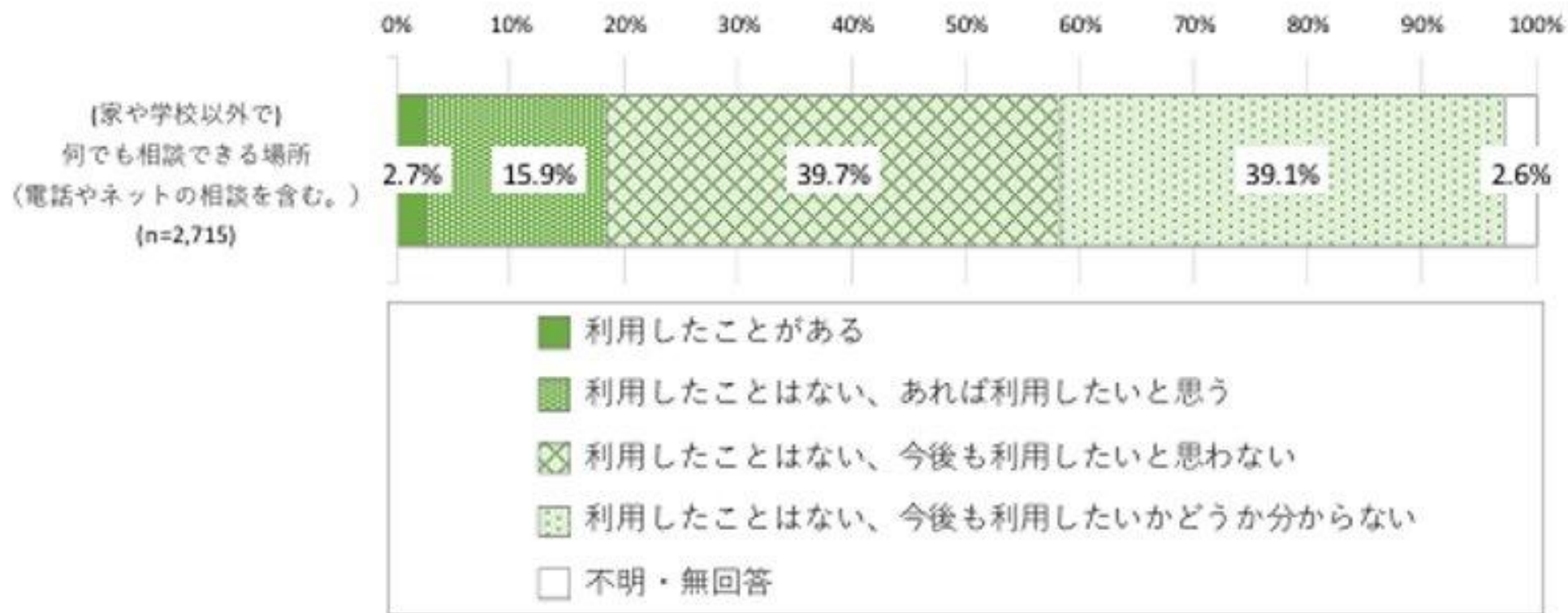
令和4年度内閣府調査「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査結果報告」において孤立・孤独を「しばしば・常を感じる」と回答した各年代の割合は、15～19歳代では約3%、20歳・30歳代は約8%となっており、若者世代の中でも20代以降の孤独感が強い

年代	人口(千人)	「しばしば・常に孤独を感じる」と回答した回答者の割合	深刻な孤立・孤独状態にある人口(人口×割合)
15 ~ 19	5,457	3.4	185,538
20 ~ 24	6,260	7.7	482,020
25 ~ 29	6,519	7.7	501,963
30 ~ 34	6,395	7.9	505,205
35 ~ 39	6,871	7.9	542,809
40 ~ 44	7,631	5.6	427,336
45 ~ 49	8,745	5.6	489,720

出所)孤独・孤立の実態把握に関する全国調査結果報告(こども家庭庁、令和4年度)

本事業の背景

若者の孤立や孤独の問題は、全国的な課題としてようやく注目され始めたが、その実態は依然として深刻である。特に 10代後半から20代前半の若者においては、相談先や居場所の整備が不十分であることに加え、「あるのに使えない」支援構造が長年にわたって続いてきた。内閣府の子供の生活状況調査(令和3年度)では、「何でも相談できる場所」について「利用したい」と回答した若者が 15.7%いる一方、実際に「利用したことがある」と答えたのは 2.7%に過ぎなかった。



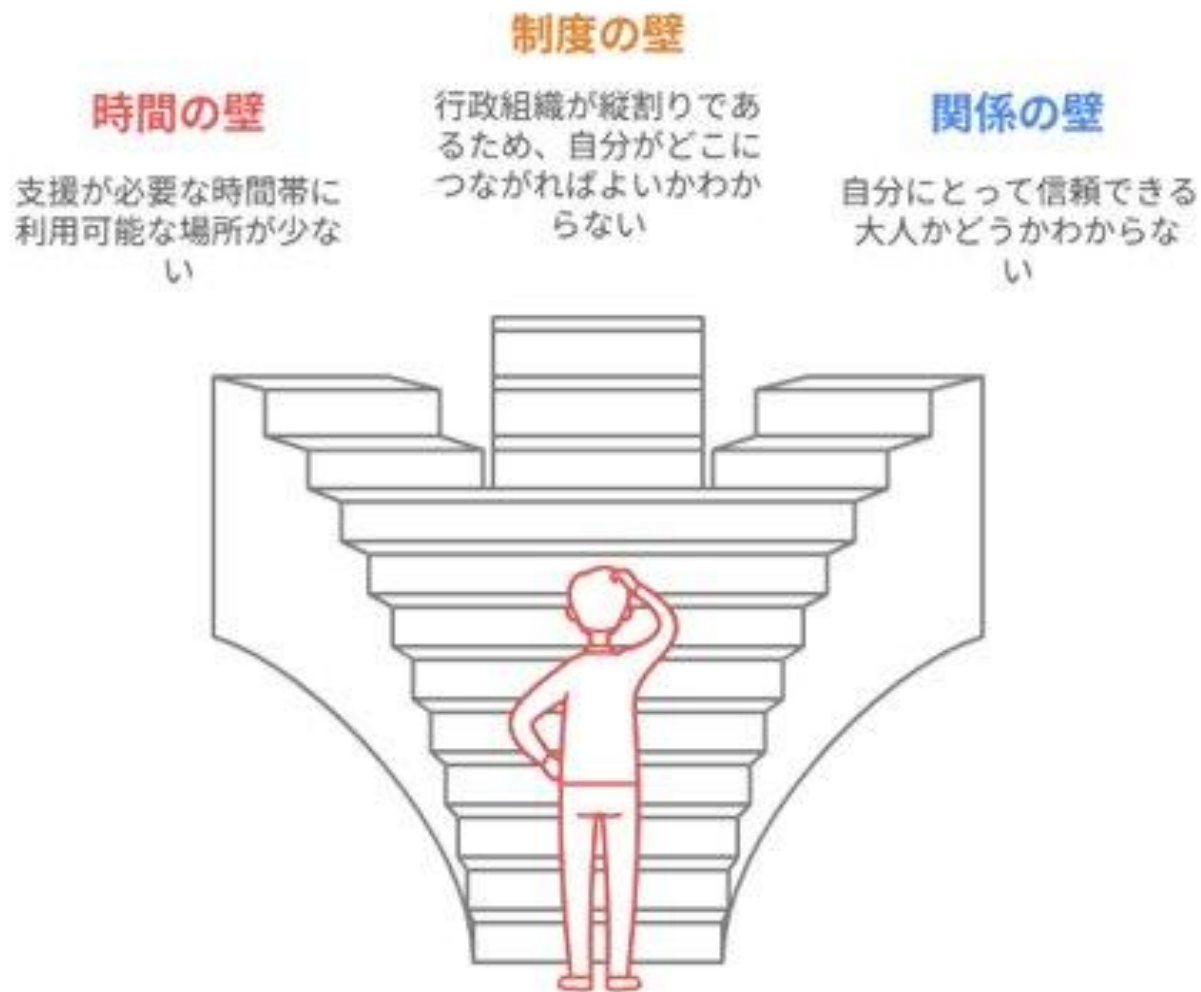
出所) [子供の生活状況調査\(内閣府、令和3年度\)](#)

本事業の背景

若者が支援につながるための課題として、「時間の壁」「制度の壁」「関係の壁」の3つの壁を取り払っていくことが重要であると考えられる。

これらの壁を解消していくうえで、支援が特に手薄になる夜間帯に、「支援一被支援」ではない関係性から若者とつながることができる居場所支援が有効であると考えられる。

居場所支援を、困難を抱える若者や、今は困りごとがないが将来的に課題に直面する可能性のある若者との最初の接点(≒アウトリーチ)として位置づけ、活動していくことが重要なのではないか。



本日のアジェンダ (13:30~15:00)

1 団体紹介

育て上げネットについて

2 休眠預金活用事業について

制度の概要

3 本事業の背景

若者の孤立・孤独の深刻化

4 3年間で取り組んでいただきたいこと

事業概要・ロジックモデル・伴走支援

5 募集の概要

実行団体の条件・助成額

6 申請・審査の流れ

スケジュール

7 計画書類について

事業計画・資金計画の記載方法

8 質疑応答

3年間で取り組んでいただきたいこと

事業名(主): 若者をつながるための「夜の居場所」創出および経営運営支援事業

事業名(副): 実践と研究の融合を通じた社会実装モデルの形成

実行団体のみなさまに目指していただく姿

本事業を通じ、夜間の居場所を地域に定着・継続させながら、調査研究・資金調達・政策提言まで自ら担える団体へと成長できている状態

- ・居場所を定期的・継続的に開所し、若者につながり続けている
- ・研究者と連携し、支援の成果をデータ化・可視化できている
- ・クラウドファンディング等の資金調達に取り組み、事業終了後も自走できる収益基盤を築いている
- ・自治体へ若者支援の必要性を提言する「アドボカシーの担い手」になっている

受益者(若者)に届けたい変化

孤立や困難を抱えていた若者(概ね15~39歳)が、安心できるつながりを得て孤独感が軽減する。
夜間の居場所を通じて、社会との接点・信頼できる人間関係を醸成できている状態

本事業の4つの柱

① 夜間居場所の支援

夕方~夜間に開所する居場所の立ち上げ・運営をサポート。ソーシャルワーカー等の専門人材の配置を必須とする

② 調査研究・エビデンス構築

研究者との協働により居場所支援の成果を可視化。自治体・省庁への政策提言の根拠とする

③ 資金調達の持続可能性

クラウドファンディング等、多様な資金調達手法の習得を支援し、事業終了後も自走できる体制を構築

④ 政策提言・社会実装

現場の実践→研究→政策化の一貫通貫モデルを構築。国への提言はFDO、自治体は実行団体が担う

3年間で取り組んでいただきたいこと

事業概要

- 本事業は、**孤立や困難を抱える若者(概ね 15歳～30歳代)を対象に、夕方から夜間まで開所する居場所活動の立ち上げ・運営を志向する団体を支援するもの** である。
居場所は定期的な開所を想定しつつ、各団体の実情に応じた提案を柔軟に受け入れる。必要に応じて家族支援等の実施も可とするが、必須としない。
- 居場所支援に関しては、**地域社会との接続性が重要であることから、活動には必ずソーシャルワーカー等の専門人材を関与**させ、支援ニーズの把握と当事者および地域との信頼関係を構築することを重視する。
- 居場所支援はその重要性が支援の現場で認識されている一方、支援の効果・成果が可視化しにくい活動であり、社会資源が投入されにくい実情がある。本事業では、各団体に**研究者との協働体制を構築**してもらい、現場の知見とデータを活用した実践的な研究調査を進める。
居場所で見えてきた課題や変化を自治体と共有し、政策提言活動にも取り組む ことで、地域社会への制度的実装を後押しする。国への提言については資金分配団体(FDO)が担う。

3年間で取り組んでいただきたいこと

①若者向けの夜の居場所の運営

必須要件

開所頻度・時間帯

週1回以上、午後5時～午後11時の間に3時間以上開所できること

危機管理体制の整備

自傷行為・虐待・深夜トラブル等のハイリスク事案に専門人材に対応できる体制、マニュアルを整備・改善する意思があること

アウトリーチとしての定義

現時点でまだ支援につながっていない若者を対象とするアウトリーチ活動として実施すること

倫理的配慮の徹底

インフォームドコンセントや守秘義務を、法人の規程に基づき厳格に運用できること

専門人材の配置

ソーシャルワーカー等の専門職を活動に必ず関与させ、事業体制中に明示。当事者・地域との信頼関係を構築する体制があること

ジェンダーバランスへの配慮

受益者の属性に対して適切なジェンダーバランスの人員配置を行うこと

想定する受益者・運営のポイント

受益者像(概ね15～39歳)

非行・ヤングケアラー・経済的困窮・LGBTQ・不登校傾向・外国ルーツ等
地域の実情に基づき、フォーカスする若者の属性を具体的に提案してください

「支援—被支援」ではない関係性から始める

「安心していられる場所」であることを最優先に。相談・地域資源への接続は、関係が育まれた先のステップとして位置づける

地域の社会資源との連携

就労・福祉・医療・教育など、利用者の状況に合わせた専門機関と連携し、適切な社会資源へつなぐ体制を構築する

実行団体間の相互学習への貢献

事業期間中3回予定の事例共有会でグッドプラクティスや失敗事例を積極的に共有し、実行団体ネットワークの形成に貢献する

【FDOサポート】夕方・夜間居場所の実施助言 / 支援コンテンツ・グッドプラクティスの共有 / 支援者育成の助言 / 地域ステークホルダーとの接続支援

3年間で取り組んでいただきたいこと

②研究者との協働

【共通調査】全実行団体で実施（必須）

利用者への直接調査

孤独感スコア（UCLA孤独尺度・短縮版）や安心感・つながりの実感を、利用開始時から半年ごとに時系列で測定。アウトカムを科学的に検証する

匿名個別ID（連結コード）の管理

個人情報特定されない形で事例を収集・提供できるデータ管理フローを遵守すること

月次報告（支援記録・活動実績ベース）

支援記録・活動実績をもとに、資金分配団体への月次報告を実施する（詳細は採択後に協議）

【個別調査】各団体が研究者と設定（必須）

申請時に「調査計画書」を提出（審査対象）。採択後に研究テーマ・研究者を確定。申請時点でテーマが確定している必要はありません。必要に応じFDOが研究者とのマッチングをサポート。

研究テーマ例

（以下に限らず、地域・受益者属性・事業主旨に合わせて自由に設定可）

研究テーマ例1

夜間帯の居場所が「孤独感・安心感」に与える影響評価

利用開始時から半年ごとの孤独感スコアの変化を時系列分析し、短期アウトカムを科学的に検証する

研究テーマ例2

「3つの壁」を乗り越えるアウトリーチ・プロセスの解明

居場所での関係性から地域資源への接続に至るプロセスを業務日誌・ケーススタディで可視化・構造化する

研究テーマ例3

夜間支援における「危機管理」と「専門職の役割」

ハイリスク事案への専門人材の介入記録を分析し、公的制度への実装に向けた運営ガイドライン策定に寄与する

研究テーマ例4

アウトリーチとしての夜の居場所の有効性評価

居場所設置が公的支援制度への認知・接続にどう影響するかを検証し、アウトリーチ機能としての効果を示す

3年間で取り組んでいただきたいこと

③ファンドレイズとアドボカシー

ファンドレイズ(資金調達)

必須要件:本事業期間の初年度から積極的に取り組み、実績を上げる意欲があること

なぜ「初年度から」なのか

ファンドレイジングは一朝一夕では実績が積み上がりません。寄付者との関係構築・クラウドファンディングの実施・行政との協議には時間がかかります。事業を最大限に活かすため、初年度から着手することをお願いします。

クラウドファンディング

事業ストーリーを発信しながら支援者を募る。実施・改善プロセス自体がアドボカシーにもなる

継続寄付プログラム (マンスリー等)

継続的な支援者を育てる仕組みをつくり、安定的な収入源とする

自治体・行政からの事業受託

アドボカシー活動を通じて、地域の若者支援事業の委託獲得を目指す

民間助成金・企業協働

本事業終了後を見据えた多様な収入源を確保。FDOがノウハウを提供

アドボカシー(政策提言)

必須要件:自治体に対し、本事業の成果・エビデンスをもとに若者の夜の居場所の制度的実装を働きかける「アドボカシーの担い手」になる意思があること

FDOと実行団体の役割分担

実行団体

各団体が立地する自治体(基礎自治体・都道府県)への政策提言

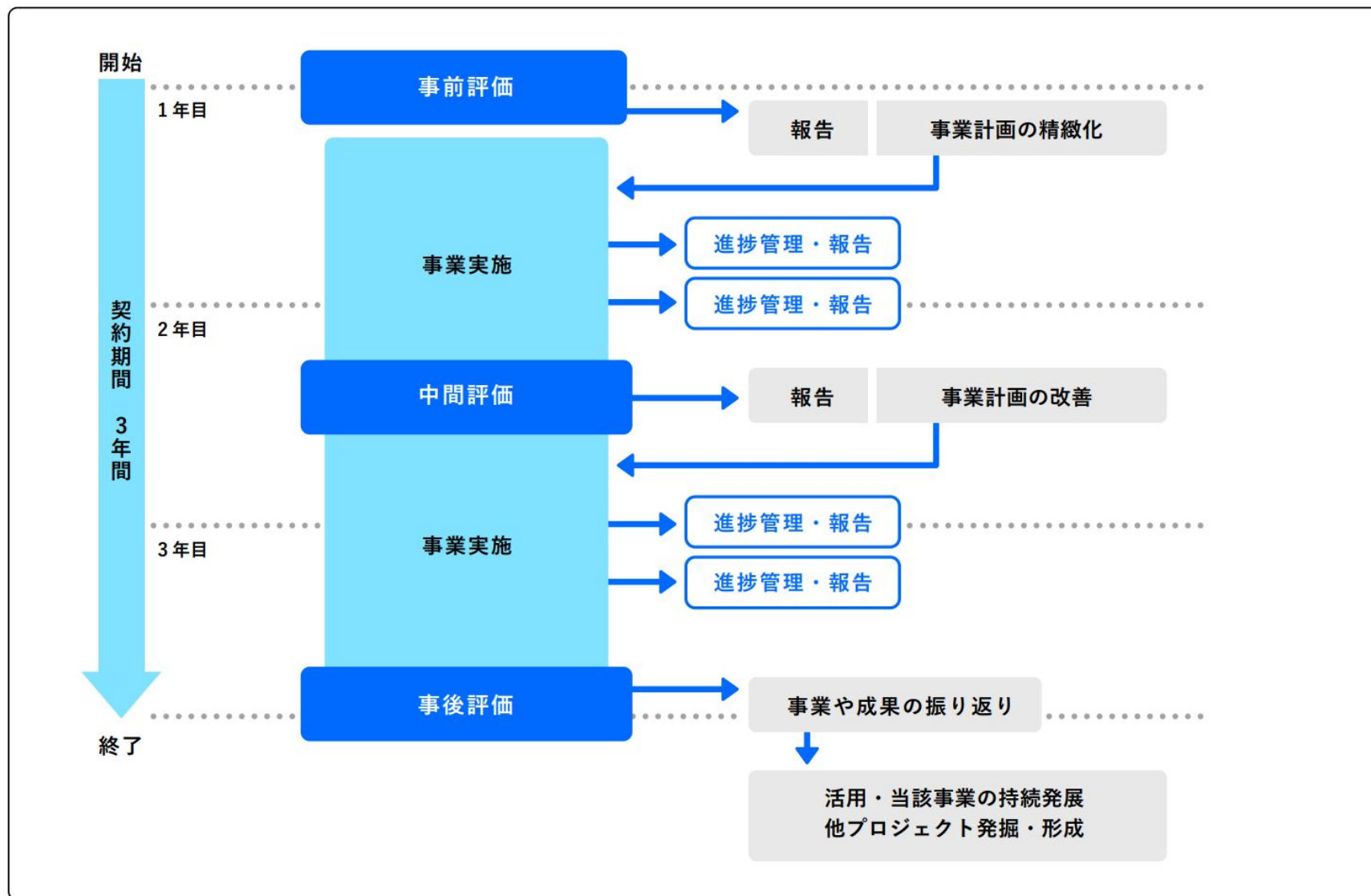
育て上げネット (FDO)

中央官庁・政府への政策提言(国レベル)

提言に活用するエビデンス(研究者との協働で積み上げる)

- ✓ 若者の孤独感スコアの変化(利用前後の定量データ)
- ✓ 既存の公的制度では対応できなかった事例の収集・分類(個人情報特定なし)
- ✓ 3つの壁(時間・制度・関係)をどのように乗り越えたかのプロセス記録
- ✓ 夜間帯の居場所が地域の若者支援に与えたインパクト評価

3年間で取り組んでいただきたいこと 事業評価



3年間で取り組んでいただきたいこと まずは事前評価から。ハンドブックを活用して評価計画を策定しましょう。



事前評価
事業設計図編



休眠預金活用事業

実行団体向け評価ハンドブック

2022年3月版



事前評価
評価小項目編



休眠預金活用事業

実行団体向け評価ハンドブック

2021年6月版

3年間で取り組んでいただきたいこと 資金分配団体としての伴走支援

①事業設計・組織基盤強化

- ・ ゴール設定・ロジックモデル作成サポート
- ・ 事業計画・資金計画のアップデートサポート
- ・ 休眠預金事業の経理・進捗管理
- ・ インパクト評価・学識者マッチング

②居場所・支援活動サポート

- ・ 夕方・夜間居場所支援の実施助言
- ・ 支援コンテンツ・グッドプラクティスの共有
- ・ 支援者(ボランティア等)育成に関する助言
- ・ 支援者同士の交流機会の提供

③調査研究・エビデンス

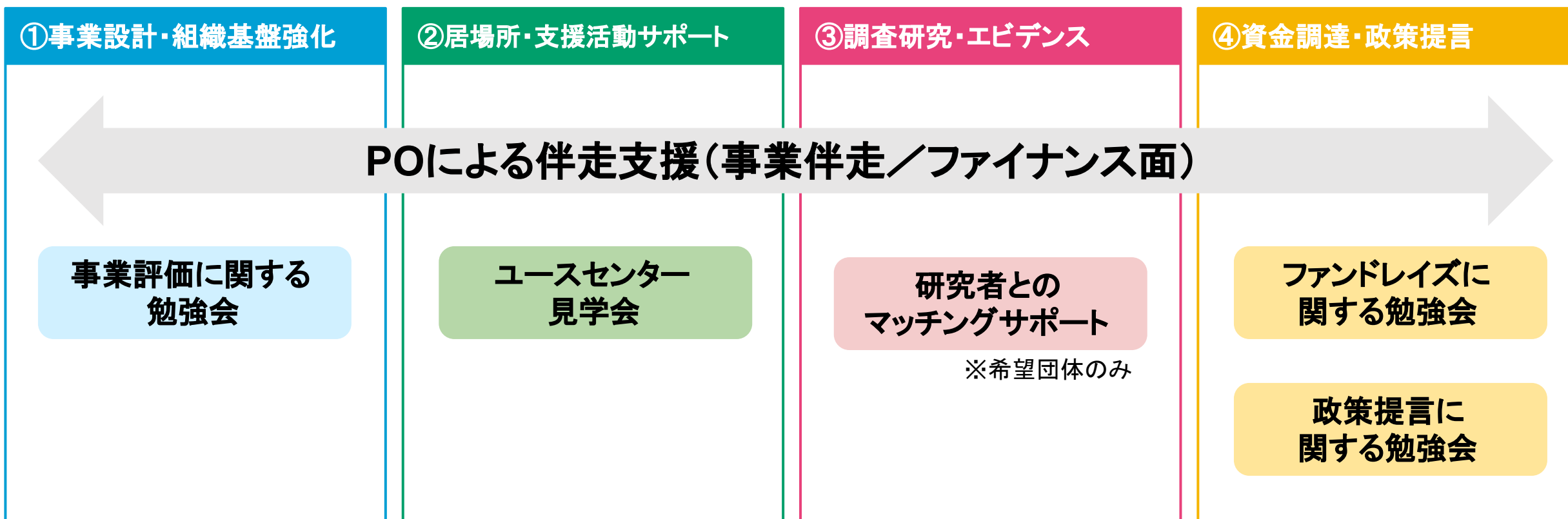
- ・ 研究者・有識者とのマッチングサポート
- ・ 共同研究の環境整備
- ・ RISTEX等との協働
- ・ 成果の対外発信・記録作成サポート

④資金調達・政策提言

- ・ クラウドファンディング等の資金調達アドバイス
- ・ 地域ステークホルダーとのネットワーク構築
- ・ 省庁・自治体へのアプローチ・政策化支援
- ・ 対外情報発信能力の育成

3年間で取り組んでいただきたいこと 伴走支援および研修会・イベント等

事業面および精算等のファイナンス面に関するプロジェクトオフィサー(P.O)による伴走支援に加え、事業を推進していく上で必要なテーマに関して、スポットで様々な研修・交流機会を提供します



3年間で取り組んでいただきたいこと 事業の全体像

初年度(2027年度)前半は主に事業計画の精緻化、調査研究の計画策定、評価計画の策定(事前評価)がメインの取組内容となる見込み。団体の事業進捗状況に応じてユースセンターの運営は逐次開始していただけます。「ファンドレイズ、アドボカシーは最終年度にやればいいや」ということではなく、初年度から取り組めるもの・準備出来ることに関してはサポート・情報提供を行っていく予定です。

1年目

- 事業全体のリバイス
- 事業評価策定(事前評価)
- 調査研究テーマ・研究者との目線合わせ、調査計画策定
- 居場所の立ち上げ・整備
- ファンドレイズ準備

2年目

- ユースセンター運営
- 調査研究
- ファンドレイズ
- 政策提言準備
- 事業評価(中間評価)

3年目

- ファンドレイズ
- 政策提言
- 事業評価(事後評価)
- 事業報告・監査
- 支援モデルの改善
- 事業継続に向けた取り組み

本日のアジェンダ (13:30~15:00)

1 団体紹介

育て上げネットについて

2 休眠預金活用事業について

制度の概要

3 本事業の背景

若者の孤立・孤独の深刻化

4 3年間で取り組んでいただきたいこと

事業概要・ロジックモデル・伴走支援

5 募集の概要

実行団体の条件・助成額

6 申請・審査の流れ

スケジュール

7 計画書類について

事業計画・資金計画の記載方法

8 質疑応答

本事業の募集内容

「アウトリーチとしての居場所支援」に取り組む団体 5団体への助成を想定。採択に当たっては、事業の継続への意志と、事業継続を実際に見込めるポテンシャル等についても考慮します。

実行団体イメージ	<p>支援(活動・場所)基盤と若者支援に関する実績を有する一方で、アウトリーチとしての夜間の居場所運営に取り組んだ経験は少ない支援団体。支援リソースはあるものの、まだ繋がっていない若者層へのアウトリーチに課題を持っている。</p> <p>運営面では、中長期的な資金調達、行政や他団体との緊密な連携が課題となっている。また、支援・活動の成果を可視化し、行政や地域に対し若者支援の必要性を提示していく意思がある。</p>
1実行団体当たり助成金額	助成金約1500万円(最大2000万円) + 評価関連経費75万円(最大100万円)

本事業の募集内容

事業期間:2026年7月1日～2029年2月末(最長2年8ヶ月)

【申請事業について】

- ・ 夜の居場所:週1回以上、午後5時～11時の間の3時間以上を開所できること
- ・ 現時点でつながれていない受益者に対するアウトリーチ活動として定義
- ・ 専門人材(ソーシャルワーカー等)を配置し、事業体制中で明示すること
- ・ 危機管理体制の整備(自傷・虐待・深夜トラブル等への対応マニュアルの整備意欲)
- ・ 倫理的配慮の徹底(インフォームドコンセント・守秘義務の厳格な運用)
- ・ 想定受益者の明確化(地域の実情に基づき、フォーカスする若者の属性を具体的に提案)
- ・ 相互学習への貢献意欲(事例共有会での積極的な情報共有)
- ・ ジェンダーバランスに配慮した組織運営・担当者の配置
- ・ ファンドレイジングに初年度から積極的に取り組む意欲
- ・ 自治体への「アドボカシー」の担い手になる意思

【調査研究について】

- ・ 実行団体共通で実施する調査研究への協力
- ・ 研究者・有識者とともに、客観的な調査研究を共に進める柔軟性
- ・ 匿名個別ID(連結コード)の発行など、アウトカムを科学的に測定するデータ管理フローの遵守

本日のアジェンダ (13:30~15:00)

1 団体紹介

育て上げネットについて

2 休眠預金活用事業について

制度の概要

3 本事業の背景

若者の孤立・孤独の深刻化

4 3年間で取り組んでいただきたいこと

事業概要・ロジックモデル・伴走支援

5 募集の概要

実行団体の条件・助成額

6 申請・審査の流れ

スケジュール

7 計画書類について

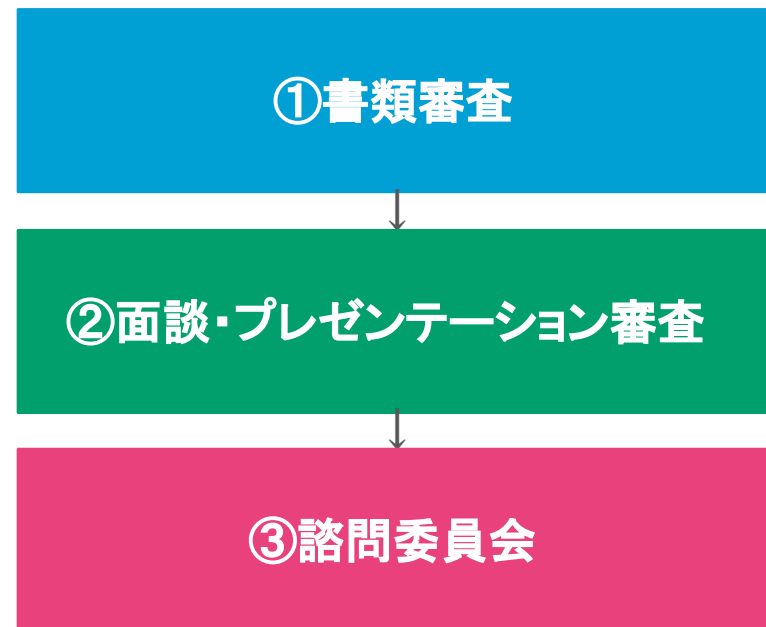
事業計画・資金計画の記載方法

8 質疑応答

申請・審査の流れ スケジュール

項目	時期
公募要領公開(WEBSITE等)	2026年4月10日(金)
公募説明会の開催	2026年4月17日(金)
公募締め切り日時	2026年5月8日(金)18時
実行団体の審査	2026年4月中旬～5月下旬
内定通知および実行団体決定	2026年5月下旬
契約締結	2026年6月下旬
助成事業開始	2026年7月1日～

審査の流れ



主な提出書類

- ・ 助成申請書 事業計画書 資金計画書等 調査研究計画書
- ・ 自己資金に関する申請(該当団体のみ)
- ・ 定款、登記事項証明書(発行3ヶ月以内)、事業報告書(過去3年分)、決算報告書類
- ・ 安全管理・危機管理の実施体制図(自由書式)

申請・審査の流れ(スケジュール)

申請時の提出資料

申請に必要な書類

申請は、以下の書類に申請内容を記載いただきます。

分類	申請書類	提出形式	単独申請	コンソーシアム申請		備考
				幹事団体	構成団体	
申請事業として提出する書類	様式1 助成申請書	PDF	●	●		※登録印の押印が必要
	様式2 事業計画書	Excel	●	●		
	様式3 資金計画書等	Excel	●	●		
	調査研究計画書	PDF	●	●		欄外をご参照ください。
	様式4 自己資金に関する申請	WORD	●	●		※該当する団体のみ提出
	様式5 コンソーシアムに関する誓約書	PDF		●		※幹事団体取りまとめのうえ提出
団体ごとに出す申請書類	様式6 団体情報	Excel	●	●	●	
	様式7 役員名簿	Excel	●	●	●	※役員名簿はパスワード必須 ※パスワードは別途資金分配団体に提出
	様式8 ガバナンス・コンプライアンス体制現況確認書	Excel	●	●	●	ガバナンス・コンプライアンス体制については、別添1参照
	定款	PDF	●	●	●	
	登記事項証明書(全部事項証明書)	PDF	●	●		※発行日から3ヶ月以内の写し
	事業報告書	PDF	●	●		※過去3年分。設立から3年未満の団体は提出可能期間分のみ提出
	決算報告書類	貸借対照表	PDF	●	●	
損益計算書(活動計算書、正味財産増減計算書、収支計算書等)		PDF	●	●		
監事及び会計監査人による監査報告書		PDF	●	●		

【ご提出方法】メールにて提出を受け付けています。
送付先: kyumin@sodateage.net

申請・審査の流れ

申請から採択まで



公募説明会の開催	2026年4月17日（金）
個別相談会の開催	2026年4月24日（金）～5月1日（金）
公募締め切り日時	2026年5月8日（金）18時
実行団体の審査	2026年4月中旬から5月下旬
内定通知および実行団体決定	2026年5月下旬
契約締結	2026年6月下旬
助成事業開始	2026年7月1日～

本日のアジェンダ (13:30~15:00)

1 団体紹介

育て上げネットについて

2 休眠預金活用事業について

制度の概要

3 本事業の背景

若者の孤立・孤独の深刻化

4 3年間で取り組んでいただきたいこと

事業概要・ロジックモデル・伴走支援

5 募集の概要

実行団体の条件・助成額

6 申請・審査の流れ

スケジュール

7 計画書類について

事業計画・資金計画の記載方法

8 質疑応答

申請にあたって ①事業計画書

①事業概要

事業開始・終了日、対象地域、直接対象グループと人数、最終受益者と人数を記載

②事業の背景・課題

社会課題の現状・数値根拠、行政等既存の取組状況、申請団体の既存取組状況、休眠預金で実施する意義

③事業設計(ロジックモデル)

中長期アウトカム、短期アウトカム、活動・アウトプット、指標・初期値・目標値を設定

⑥実行団体の募集

採択予定団体数、実行団体のイメージ、1団体あたりの助成額、案件発掘の工夫

④広報・連携・対話戦略

成果の発信戦略、他セクターとの連携計画、出口戦略・持続可能性

⑤事業実施体制

実施体制(役割・人数・スキル)、PO配置、ガバナンス・コンプライアンス体制

申請にあたって ②資金計画書

目的区分	どのような経費か	上限
直接事業費	本事業を実施するために直接必要な経費(人件費・旅費・業務委託費等)	(上限なし)
管理的経費	本事業に要する経費として特定が難しいが一定の負担が生じているもの(家賃・通信費等)	助成額の15%以内
評価関連経費	事業評価を行うために必要な経費(調査費・外部評価アドバイザー等)	助成額の5%以下

総事業費と自己資金要件の概念

評価関連経費(C)
助成額の5.0%以下

助成額(A)
直接事業費85%以上+管理的経費15%以下

自己資金(B)
A+Bの20%以上

経費計上の主なルール

按分計上:

他事業と兼務する人・物は本事業従事分のみ按分計上。
二重支払いに注意

区分経理:

本事業専用の指定口座を開設し、助成金+自己資金等の
総事業費を管理

精算方式:

キャッシュベース(支払いベース)で精算。減価償却費は計上不可。税込額で計上

人件費水準:

計上する場合は人件費水準(幅・平均値)をWebサイトで公表することが必要

計画書類について

積算に関するご参考・注意事項

◆全体

- ・「公募要領」および「積算の手引き」を良くお読みいただき、資金計画書を作成してください
- ・基本としては、当たり前ですが、応募する助成事業に要する経費を入れる、それ以外は入れない
- ・1団体あたりの助成額は1500万円(事業期間全体に対する、目安の金額)上限2000円、および助成額5%以下の評価関連経費
- ・経済合理性を欠く経費(グリーン車などの特別料金)、現金・金券類の給付などは対象外です

◆目的区分・自己資金等

C 評価関連経費	A 助成額		B 自己資金や民間資金等
Aに対して5.0%以下	直接事業費 Aに対して85%以上	管理的経費 Aに対して15%以下	A+Bに対して20%以上

- ・直接事業費(助成額の85%以上)
 - ～事業を実施するために直接必要な経費
 - ～調査研究(共同研究)にかかる費用を含みます
- ・管理的経費(助成額の15%以下)
 - ～管理部門の経費、振込手数料、Webページ作成費用など。外部監査経費を含めることができる
- ・評価関連経費(助成額の外枠、助成額の5%以下)
 - ～水準向上のため外部専門家のアドバイスを受ける費用など。自己評価が基本であり、評価作業そのものを外部委託する等は不可
- ・目的区分を跨ぐ流用は原則ダメ(どうしてもの場合は計画変更)、区分のなかでの流用は一部可能

計画書類について

積算に関するご参考・注意事項

◆目的区分・自己資金等(続き)

・自己資金や民間資金等を、事業費(=助成額+自己資金等)20%以上確保すること

(特例的に、財務状況や緊急性などを踏まえて、「自己資金に関する申請書」に理由等を明示することで20%未満とすることも可能。
ただし、その場合も最終年度は20%必要)

～資金計画書の「積算の内訳(明細入力)」では、この自己資金・民間資金から充当する部分の事業経費は除いて記載する
～ただし、自己資金・民間資金も含む事業費全体を、本助成金の専用口座で管理することが必要です

◆按分

応募する助成事業に関する経費のみ、とするにあたり、按分が必要となるケースが想定されます

・人件費

～本助成事業の専任の方の人件費は全額算入できますが、他業務を兼務する方の人件費については、本助成事業に充てる部分のみ算入可能です

～按分(給与総額×按分比率=本助成事業分の給与)は、労働実態に応じて適切な方法で実施してください

(例えば、一日単位での兼務の場合は「週5日のうち〇日が本助成事業」、時間ベースでの兼務となる場合は「本助成事業に従事する時間/月間労働時間」など)

～なお、積算(資金計画書作成)の時点では、直接事業費に関わる人件費、管理的経費の人件費とも、上記のようなロジックでの按分で算出して計上可能ですが、事業開始後に実際に精算する際には、直接事業費はロジックではなく勤務実態(タイムカードやその他の方法で記録作成した勤務記録等による)に即して、本助成事業部分の人件費のみの精算(本助成金からの支払)となります

計画書類について

積算に関するご参考・注意事項

◆按分(続き)

・不動産

～本助成事業専用の物件でない場合、例えば賃借している物件全体の家賃のうち、本助成事業に充てる部分のみ算入可能です(例えば、「居場所に使うスペース＝直接事業費」は家賃全体を面積×営業時間で割り算して「1㎡・1時間あたりの家賃」を算出し、本助成事業に使う面積と時間で掛け算する、「管理部門が使うスペース＝管理的経費」は、団体に管理部門が使うスペース部分の家賃を算出したうえで、それを本助成事業に関わる人数(さらに各自の関わる割合を考慮)で割る、団体の事業費全体のうち本助成事業費の割合で割る など)

◆その他

・受益者への交通費支給

～受益者が「居場所」に通う交通費は支給できません(ただし、緊急を要すると判断される場合は状況に応じて支給可能なケースあり)。

～アウトカムに創出につながる活動時の交通費の実費支給は可能です(体験就労、職員と行政に訪問する、など)。

～ガソリン代を支給したい場合も実費精算が基本です。

(計算を簡易にする方法を取りたい、交通費規定とあわせた団体独自の単価を使用したい(交通費規定の提出必要)という場合には、単価が実際のガソリン価格より低い必要があります)

・受益者への謝金

～イベント登壇謝金や労働の対価の支払は可能です(労働に関する契約・覚書、領収書など必要)。

～金銭的対価の伴う価値提供の発生しない職場体験の場合は謝金支払できません。

計画書類について

積算に関するご参考・注意事項

◆その他(続き)

・受益者へのレンタル

本助成事業におけるアウトカム創出につながる活動にて必要であれば、WIFIや就職活動に必要なスーツをレンタルすることは可能です。

(団体が購入して受益者にレンタルする。レンタルでなく物品を提供したり、購入資金を現金で渡す、ということはありません)

・発生月と支払月

事業期間内に発生して、事業期間後にキャッシュアウトするもの(給与など)も事業費に含めることが可能です。

(ただし、事業期間終了後の支払いに締め切りがありますので、事業期間内に発生し、支払い締め切りに間に合うもの、となります)

計画書類について

積算にの指引きを参照しつつ計画を策定してください。



申請にあたって ③調査計画書

実行団体の事業計画に基づき、個別に設定したテーマに基づいて、専門家(研究者)と連携して調査研究を行っていただきます。

テーマ設定や専門家(研究者)とのマッチングについては、必要に応じて資金分配団体がサポートします。申請時点でテーマが確定している必要はありませんが、申請時に「調査計画書」として、概要をご提出いただきます。「調査計画書」も審査の対象となります。

以下に研究テーマ例を記載します。必ずしもこの内容を踏襲する必要はありません。申請事業の主旨、意義、受益者属性、地域の特性などに沿って、本事業終了後の事業継続・拡大、およびその他政策提言等につなげるための調査テーマおよび調査計画を策定してください。

- **研究テーマ例 1: 夜間帯の居場所が若者の「孤独感・安心感」に与える影響評価**
 - **研究概要:** 若者が最も孤独を感じやすく、自傷や自殺のリスクが高まる「夜間(18時以降)」という時間帯に焦点を当てた研究です。共通調査項目である「UCLA孤独尺度(短縮版)」や、独自の簡易アンケート(安心感・つながりの実感)を用い、利用開始時から半年ごとの変化を時系列で分析します。
 - **研究の狙い:** 「週1回以上の継続利用により孤独感が解消される」という本事業の短期アウトカムを科学的に検証し、夜間の居場所が若者のメンタルヘルス向上に寄与することを証明します。
- **研究テーマ例 2: 支援の「3つの壁」を乗り越えるアウトリーチ・プロセスの解明**
 - **研究概要:** 若者が支援につながるのを阻害している「時間の壁」「制度の壁」「関係の壁」を、夜間の居場所がどのように取り払っているかを可視化する研究です。具体的には、居場所での「支援—被支援ではない関係性」から、どのように具体的な相談や地域資源(就労・福祉・医療等)への接続に発展したかのプロセスを、業務日誌やケーススタディを通じて分析します。
 - **研究の狙い:** 「あるのに使えない」と言われてきた既存の公的支援の隙間を埋める、民間ならではの柔軟な支援モデル(アウトリーチ・接続モデル)を構造化します。
- **研究テーマ例 3: 夜間支援における「危機管理」と「専門職の役割」に関する実践研究**
 - **研究概要:** 夜間の居場所で発生しやすいハイリスクな事案(自傷行為、虐待の露呈、深夜のトラブル等)への対応と、そこに介在する **ソーシャルワーカー等の専門人材**の役割を検討する研究です。どのようなトラブルが発生し、専門職がどう介入することで、若者の安全が確保され、信頼関係(関係の壁の解消)が構築されたかを詳細に記録し、分析します。
 - **研究の狙い:** リスクの高い夜間支援において、専門人材を配置することの重要性をエビデンスとして提示し、将来的な公的制度への実装(政策提言)に向けた運営ガイドラインの策定に寄与します。
- **研究テーマ例 4: アウトリーチとしての夜の居場所における有効性評価**
 - **研究概要:** 夜間帯の若者向けの「居場所」設置により、公的支援制度や社会的リソースの認知度、情報アクセスにどのような影響があるか。また、このような居場所が、それまでには公的制度や支援の活用に至らなかった若者との接点となりうるのか、その効果と有効性に関する研究です。
 - **研究の狙い:** 支援としての「居場所」のみならず、アウトリーチ(受益者となりうる若者との出会い)としての居場所の効果検証を行います。

本日のアジェンダ (13:30~15:00)

1 団体紹介

育て上げネットについて

2 休眠預金活用事業について

制度の概要

3 本事業の背景

若者の孤立・孤独の深刻化

4 3年間で取り組んでいただきたいこと

事業概要・ロジックモデル・伴走支援

5 募集の概要

実行団体の条件・助成額

6 申請・審査の流れ

スケジュール

7 計画書類について

事業計画・資金計画の記載方法

8 質疑応答

質疑応答 / よくある質問

申請資格

Q すでに夜間の居場所に類する活動を行っている団体は申請できますか？

A 申請可能です。本事業では「現時点でつながれていない若者へのアウトリーチ」として夜の居場所を定義しています。既存の活動実績がある場合でも、拠点の増設や新たな属性の若者を対象とする事業であれば申請できます。審査では「新しい層へのアウトリーチ」としての事業設計が評価されます。

調査研究

Q 申請時点で共同研究者が決まっていなくても申請できますか？

A 申請できます。申請時提出の「調査計画書」は研究テーマの概要と共同研究者の候補に関する考え方を記載するものであり、確定は不要です。採択後、育て上げネット(FDO)が研究テーマの確定・必要に応じて共同研究者とのマッチングをサポートします。

自己資金

Q 自己資金20%の確保が現時点では難しい場合はどうすればよいですか？

A 初年度・2年目は特例申請により減額が可能です(別途申請が必要)。ただし最終年度(3年目)は20%以上の確保が必須です。自己資金には民間助成金・寄付金等も含まれます。本事業ではファンドレイジングへの取り組みを初年度から求めており、事業期間を通じて収入基盤を構築していくことを想定しています。

報告・評価

Q 月次報告や事業評価の事務負担はどの程度ですか？

A 月次報告は支援記録・活動実績ベースです。事業評価は事前・中間・事後の3回で、FDOが経験の少ない団体には伴走支援を行います。ICTツールの積極活用を求めており、正確な進捗報告・証憑管理を効率的に行える体制を一緒に構築します。

採択・審査

Q 採択5団体に地域・規模の制限はありますか？また初めての休眠預金申請でも問題ないですか？

A 地域・規模の制限はありません。採択に際しては地域バランス・受益者の多様性・事業継続可能性等を総合的に考慮します。休眠預金事業が初めての団体でも、育て上げネットが事業設計・経理・評価まで包括的に伴走支援するため申請可能です。

質疑応答 休眠預金プラットフォームのQ&Aもご活用ください



休眠預金活用事業

休眠預金活用
プラットフォーム
Kyū - Piāt

助成システム

マイページ

ログイン

公募・申請

休眠預金活用とは

学習・研修

メディアチャンネル

イベント

よくある質問・問い合わせ

よくある質問

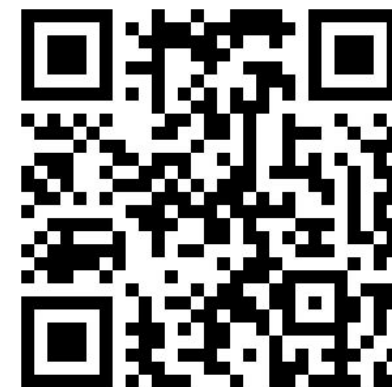
[ホーム](#) > よくある質問

キーワードを入力して、知りたい情報を検索できます。
複数のキーワードを使う場合は、単語と単語の間をスペースで区切ってください。

キーワードから探す

① [休ブラアカウント保有者](#) はログインいただくとすべてのFAQを閲覧いただけます。

検索



質疑応答 個別相談のご案内

1団体1回、ご利用いただけます。申請内容のブラッシュアップにご活用ください。

1. 休眠サイトの個別相談会お申込ボタン



育て上げネット

公募について 事業テーマ 対象事業 対象団体 助成金について

https://pj.sodateage.net/kyumin/r8_social_isolation_support/
公募説明会・個別相談会について

公募説明会
育て上げネットの担当者による公募説明会を実施いたします。

日時：2026年4月17日（金）14時～15時
場所：オンライン開催
内容（予定）：休眠預金活用事業について / 本事業について / 申請について / 質疑応答

[申し込みはこちら](#)

個別相談会（先着順）
ご希望の方を対象に、個別相談会を実施いたします。
説明会や公募要領の内容を踏まえたうえで、申請内容のブラッシュアップにご活用ください。
※ご質問の内容によっては、公平性の観点からお答えできない場合もございます。

日時：2026年4月24日（金）～5月1日（金）※土日・祝日を除く
場所：オンライン開催
所要時間：最大20分程度（1団体1回のみ）

[申し込みはこちら](#)

2. ご希望の日時を選択（先着）

ZOOM Scheduler

育て上げネット社会連携事務局

育て上げネット休眠「夜の居場所」創出事業_個別相談会

ご希望の方を対象に、オンライン個別相談会を実施いたします。（所要時間20分）
説明会や公募要領の内容を踏まえたうえで、申請内容のブラッシュアップにご活用ください。
※ご質問の内容によっては、公平性の観点からお答えできない場合もございます。

1対1
30分
Zoomミーティング

2026年4月

日	火曜日 28	水曜日 29	木曜日 30	金曜日 1
10:00	10:00	10:00	11:00	
11:00	11:00	11:00	14:00	
13:00	13:00	13:00	15:00	
14:00	14:00	14:00		
15:00	15:00	15:00		

2026年4月

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

ZOOM Scheduler | 詳細情報 | 無料で試す
このサイトは reCAPTCHA で保護されています。また、

本日のまとめ

- 1 若者の孤立・孤独は深刻。222万人が日常的な孤立を抱え、特に夜間の居場所が圧倒的に不足している
- 2 本事業は夕方～夜間の居場所を支援する5団体を採択し、居場所支援＋調査研究＋政策提言の一气通貫モデルを目指す
- 3 FDOによる包括的な伴走支援(事業設計・調査研究・資金調達・政策提言)で実行団体の持続的自走を支援
- 4 1団体あたり助成金約1,500万円(上限2,000万円)＋評価関連経費。事業期間:2026年7月～2029年2月
- 5 公募要領公開:2026年4月10日、公募締切:2026年5月8日18時。育て上げネット応募予定日:4月14日

ご質問・ご不明点は本日の質疑応答にて。個別のご相談は公募説明会後に設けた個別相談会(要別途申込)にてご対応します。

事務連絡

- GW期間の営業日について
カレンダー通りの対応を予定しています。
応募締め切りの前後では問い合わせが殺到しますので、可能な限りお早目のお問い合わせ/ご確認をお願いいたします。
- アンケートのお願い

ご質問・ご不明点は本日の質疑応答にて。個別のご相談は公募説明会後に設けた個別相談会（要別途申込）にてご対応します。

休眠預金活動事業『若者とつながるための「夜の居場所」創出および経営運営支援事業実践と研究の融合を通じた

